

出典 : minesite.com

<http://www.minesite.com/nc/minews/singlenews/article/eritrea-is-the-new-frontier-for-mining-companies-even-in-spice-of-un-sanctions.html>

2010年5月14日

国連制裁にも関わらずエリトリアは鉱業会社にとって新しいフロンティアである

By Charles Wyatt

鉱業論文を歴史地理のレッスンからはじめるのは珍しいことだが、しかし、このケースにおいては、最近の多くの鉱業会社のエリトリア参入の動きを理解する唯一の方法は、この国の位置と、この国を取り巻く情勢、この国で何が起きてきたのかを正確に理解することである。この地域は、おおまかにアフリカの角と呼ばれているが、地図をよく見てみると、物理的な“角”は、ジブチ南部からアデン湾へ広がり、エチオピアを西部と北部にもち、ほとんどがソマリアで構成されている。ジブチは紅海に沿った海岸線を持ち、ソマリアはインド洋と同じくアデン湾にも長大な海岸線を有している。ここが、海賊たちが獲物を待ちながら存在している場所だと思っただろうか。しかし、エチオピアは全く海岸線をもたず、そのためにエチオピアは、何世代にも渡って、ジブチからスーダンにいたる紅海（エジプトはさらにその北方にある）からエチオピアを隔てているエリトリアにちょっかいを出し続けてきたわけである。

エリトリアは、第二次世界大戦以前は、イタリアの植民地であったが、1941年にイギリスに引き継がれた。大戦が終わると、1952年に、国際連合はエチオピアが主張する主権と、エリトリアの独立への強い願望との間の妥協策として、エリトリアをエチオピアと連邦を組む自治組織とした。この10年後に、エチオピア人はエリトリアを併合しようとし、30年以上にわたる独立戦争の引き金を引いてしまった。結果は、1993年に独立を宣言したエリトリアの勝利であり、エチオピアは陸封国となった。両国は、エチオピアの、エリトリア領内のマッサワ港やアッサブ港へのアクセスという問題や、不平等な貿易条件のために、良い隣人となることはほとんどなく、関係を悪化させた。1998年には、数年続くことになった対立の再燃があり、またしてもエチオピアは紅海へのアクセスを獲得しようとした。

2000年以来、エリトリアは戦争の荒廃から経済を立て直そうとしており、不安定な平和が続いている。しかし、難しい地域に立地しており、スーダンやジブチ、ソマリア付近国境で問題が起こるたびに、エリトリアは国連によって責任を負わされてきた。これは昨年12月の一連のエリトリアに対する制裁決議の可決において最高潮に達した。これら全ての出来事の背後にあるものは、アメリカ外交の卑劣な策謀である。アメリカは、アメリカの”推

薦候補”であるエチオピアが紅海にアクセスを持つことを求めており、エリトリアについては、アメリカの好みから見ると“独立しすぎている”と考えている。エリトリアは制裁を解除するために闘ってきた。その間にも、Tefamicael Gerahtu 駐英大使は、昨日ロンドンで、エリトリアは食料生産および教育・医療サービスの改善において自力本願になるように全力を尽くしていると述べている。

金探索者である London Africa の Rupert Baring 氏によれば、今日アスマラに着いた人々は誰でも、飛行機はイタリアに向けて再び進路を取ったのだと容易に考え得るだろう。広い街路、イタリア建築、コーヒー文化、数多くのカフェがそこにはある。彼が描く人々は、誇り高く、独立心が強く誠実であり、汚職というアフリカの多くの地域での風土病のいかなる兆しも見つけられない。鉱業会社が、その大小に関わらず、エリトリアを真剣なまなざしで見ている理由のいくつかは、こういったことである。しかし、鉱業会社のエリトリアへの注目の最大の理由は、この国が現代における未開拓の地であり、エリトリアの地下には、他のアフリカの角諸国と同様に、紅海側面上に先カンブリア代の岩盤が露出したものであるアラビア・ヌビア楕状地が存在しているからである。この楕状地は、ヨルダン、サウジアラビア、イエメンまで続いており、北部では、サハラ砂漠、アラビア砂漠として露出しており、南部ではエチオピア高原となっている。

アラビア・ヌビア楕状地は、人類の最も古い地質学上の試み（主にエジプトと北東スーダンの岩盤から金を抽出したエジプト人のこと）が行われた場所であった。新しい時代の金の発見は、スーダン、エリトリア、サウジアラビアでなされた。先週、ロンドンを通りがかったオーストラリアの金探索者である Chalice Gold Mines 社の会長である Tim Goyder は、彼の会社の Zara と Koka プロジェクトが、Centamin 社のエジプト西部砂漠にある金鉱と同じ先カンブリア代の楕状地の上にあることを示す地図を広げた。歴史と政治が原因で、エジプトで行われてきた現代の金探索（Centamin は別として）の総量はささやかなものである、しかし、エリトリアにおいては最近まで全く何もなされてこなかった。誰かが最初の開拓者になるべきだが、それはこのケースにおいては、カナダの企業である Nevsun 社であるようだ。Nevsun Resources 社は、同社の高品質な金、銅、亜鉛鉱床において、今年後半には生産を開始することになっている。

Nevsun 社の Tookie Angus 会長は、Bisha プロジェクトは、エリトリア政府から継続的な支援を受け、2008 年 1 月には鉱業ライセンスを得たと確認した。Bisha 鉱山は、エリトリアにおいて最初の近代的な鉱山となり、100 万オンスの金、940 万オンスの銀、7.34 億ポンドの銅、10 億ポンド以上の亜鉛が鉱山寿命内にもたらされる。しかし、このプロジェクトについて本当に面白い側面というのは、Nevsun 社とエリトリア政府の契約にある。現行のエリトリア鉱業法の下では、国は 10%の利益を自動的に無料で得る権利を持つが、Nevsun 社との協定の下では、国はさらに 30%の利益について有料で参加することになる。

この30%の貢献利益は、Nevsun 社への暫定的な2500億ドルの支払いで、2007年10月に合意された。Nevsun 社への支払いの残額は、独立した鑑定人により決定され、また鉱床からの最初の金の出荷により評価されるプロジェクトの30%の正味価格に基づくことになる。

鉱業会社での26%の出資金という結末にしかない南アフリカのブラックエンパワーメントの要求は、対等なパートナーとして支払う意図の全くない事業体により効果的に盗まれている、しかしこれはエリトリアには適さない。エリトリア政府は満足なリターンを確約するプロジェクトで顕著な出資分を得ようとしており、Nevsun 社との契約は正攻法なものである。さらにエリトリアは先へ進もうとしている。エネルギー・鉱山省は、9月にエリトリアで開かれる鉱業ポテンシャルを紹介する地域的なジオ・コンファレンスを組織するのを支援している。Centamin 社がエジプトから招待され、Hassai VMS 鉱床を持つ La Mancha 社がスーダンから招待され、Jabel Sayed が銅・金鉱床をもつ Citadel 社がサウジアラビアから招待されていることは殊に興味深い。アラビア・ヌビア楕状地の上にある全ての地域が代表をだしており、小国であるエリトリアが主導権を握っている。国連がアメリカの命を受けてエリトリアに制裁を課した時には、国連はこんなことは予想だにしていなかっただろう。

いまや、エリトリアでは20の鉱業会社が操業している。中国企業、韓国企業、若い企業を追いかけて数社の大手企業も入ってきている。エリトリアは、オーストラリアをモデルにした非常に賢明な鉱業法をもっている。世界有数の銅生産者である Antofagasta 社は、アスマラプロジェクトの Adi Rassi 銅・金プロジェクトにおいてカナダ企業の Sunridge Gold 社と合併事業を組んでおり、Anglo American 社は、Thani-Ashanti アライアンスに入っている。Newmont 社も事情を注視していると言われており、これが国連が制裁という決定を見直すべきもう一つの理由である。アスマラ・パレス・ホテルのグリーン・バーでは、イギリス人や似たような趣味の地元民がイギリスのサッカーを観戦しているが、カタール首長国はいまや、このホテルを所有しているだけでなく、マッサワにおいて紅海を望む別荘を建設中である。現代においていかなる探査も不可能にしてきた歴史を持つエリトリアが、いまや新たなフロンティアであり誰もが注視している。鉱業会社とファンド・マネージャーたちからの反応は似ており、例外なくポジティブなものである、それゆえにこれは、アメリカの新聞の見出しを飾ることはないかもしれないが、大きな話に構築されていくであろう。

訳者注 原文ママ